

勝俣電事連会長 定例会見要旨 (2007年3月23日)

私からは、本日開催をいたしました「信頼回復委員会」についてご報告いたします。

皆さまご案内のとおり、私ども電力各社は、11月30日の甘利大臣からのご指示を受けて、発電設備に関する過去のデータ改ざん等の有無について徹底した点検を行なっております。その結果、先月23日の会見以降も、各社で新たな事例が明らかになっております。

そうした中、今月15日には、北陸電力の調査の結果、過去の定検において制御棒3本が抜けて一時的に臨界状態になった事故を公表せずに隠していたという重大な事例が明らかになりました。

また、既にお知らせしておりますが、制御棒が抜けていた事例について調査した結果、東京電力をはじめ、これまでに7件の事例が確認されました。

とりわけ、昨日公表いたしました福島第一3号機の事例については、臨界となっていた可能性が高く、重大なことと受け止めております。

約30年前に起こった事例のため現時点では残っている資料も限られておりますが、関係者へのヒアリング等、可能な限り調査を進め、今後、徹底した再発防止に努めてまいります。

こうした事例や一連のデータ改ざん等によって、立地地域の皆さまをはじめ社会の皆さまにご心配をおかけし、電力業界に対する信頼を大きく損なったことは、電事連会長として重く受け止めており、改めて深くお詫び申し上げます。

私ども電力各社は、2002年の東電の不祥事をきっかけに

して、同じ過ちを繰り返さぬよう、共通の問題意識を持って安全管理・品質保証あるいはコンプライアンスの面から様々な取り組みを積み上げてまいりました。

例えば、安全管理・品質保証体制の充実・強化に加え、コンプライアンス窓口の設置、あるいは情報共有・情報公開の面からはホームページ等を利用した広報活動の充実等に取り組んでまいりました。さらに、関電美浜3号機の事故後には、トラブルの水平展開の強化や第三者による保全業務のレビューなどにも力を入れてまいりました。

しかしながら、このたびの点検において、本来ならば2002年の時点で明らかになり、解決しておくべき事例が、重大なものを含めて放置されていたり、隠されたままになっていたことが判明いたしました。

様々なルールや仕組みを作っても、それらを組織全体、一人一人にまで浸透させることの難しさを改めて痛感するとともに、反省をいたしております。

電力各社は、今月30日までに、最終報告あるいは再発防止対策を公表する予定ですが、それらがまとまる前に、これまでに明らかになった状況を踏まえて、安全管理・品質保証あるいはコンプライアンスの面から、これまでの取り組みでは「どこが弱いのか」「何をしっかりやっていくのか」、各社間で一定の共通認識を作り上げる必要があると考え、本日、「信頼回復委員会」を開いた次第です。

この委員会は、2002年の東電の不祥事で失った電力業界全体の信頼回復に向けて、電力10社および日本原子力発電、電源開発、日本原燃13社の社長が意見交換し、課題等を共有するために設置したもので、2004年9月に「美浜3号機事故を踏まえた今後の取り組みの方向性」について議論を行なって以来、2年半ぶりの開催となります。

本日の委員会では、これまでに明らかになった点検状況等を基に、「不足している点は何か」「強化すべきところは何か」など各社共通の課題と今後の取り組みの方向性などについて意見交換を行いました。

その結果、今後取り組むべき方向性として、

法令やルールの遵守、コンプライアンス遵守については、幹部や管理職の意識・役割が重要であることから、幹部・管理職を中心に徹底して研修・教育する。

結果として隠す・隠さないを判断する余地がなくなるような情報公開・透明性確保のルール・仕組みを徹底する。

不具合等について、社内はもちろん電力各社、メーカー、協力企業まで含めた情報の共有化・水平展開を徹底する。

などの意見が出され、今後、具体的な取り組みについてさらに議論を深めようということによって一致したほか、

さらに、様々なルールや仕組みを組織の隅々まで浸透させるために、絶対にデータ改ざん等をしない企業風土や企業文化、縦・横・斜めの風通しの良いコミュニケーションづくりにも、経営として一層力を入れていく必要があるということでも一致いたしました。

具体的な検討については、各社の最終報告が出された後の来月以降、この「信頼回復委員会」等で精力的に詰めてまいりたいと考えております。

本日、私からは以上です。